

令4 特別支援学校 (8枚のうち1)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

I 特別支援教育の推進に関して、次の問いに答えなさい。

1 障害者の権利に関する条約について述べた次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

第24条には教育について、(a)障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保し、当該教育制度及び生涯学習は、人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の(①)の尊重を強化すること、障害者が、その人格、才能及び創造力並びに精神的及び身体的な能力をその可能な(②)限度まで発達させること、障害者が自由な社会に効果的に(③)することを可能とすること、を目的とするとしている。

また締約国は、個人に必要とされる(④)が提供されること、障害者が、その効果的な教育を容易にするために必要な支援を一般的な教育制度の下で受けること等を確保することとしている。

- (1) 文中の①～④に当てはまる語句を書きなさい。
- (2) 下線部(a)を何と言うか、名称を書きなさい。
- (3) 障害者の権利に関する条約と関係する次のア～エを古い順に並べ替え、その符号を書きなさい。

ア：障害者の権利に関する条約の批准
イ：就学先決定の仕組みが改められた学校教育法施行令の一部改正
ウ：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の施行
エ：障害者の権利に関する条約に日本が署名

2 交流及び共同学習に関する次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

交流及び共同学習は、小・中学校等と特別支援学校が学校間で連携して行うものや、小・中学校等において、当該学校が所在する地域に(①)する特別支援学校の児童生徒等を受け入れて行うものなど様々な形態があるが、(②)内に行われる交流及び共同学習は、その活動場所がどこであっても、児童生徒等の(③)校の授業として位置付けられていることに十分留意する必要がある。交流及び共同学習は、各教科、(④)、特別活動等のそれぞれの授業において行うことができる。実施する学校において、(⑤)上の位置付けや(⑥)などを明確にし、適切な(⑦)を行うことが必要である。

また、(③)校の授業として実施するということは、基本的には(③)校の教師が指導を行うことになるが、具体的な指導の形態等については、(⑧)校と協議の上、個々の実態に即して適切に実施する。

- (1) 文章中の①～⑧に当てはまる語句を、次のア～テからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。ただし、同じ数字には、同じ語句が入る。また、同じ符号を複数回使用しても構わない。

ア 在籍 イ 相手 ウ 通学 エ 学校の目標 オ 遠足 カ 道徳科 キ 監視
ク 評価 ケ 参観 コ 居住 サ 保護者の責任 シ 学校行事 ス 特別支援学級
セ ねらい ソ 授業時間 タ 引率 チ 給食 ツ 教育課程 テ 校務分掌

- (2) 交流及び共同学習には、交流の側面と共同学習の側面の効果が期待されるが、交流及び共同学習を実施する際に、障害のない児童生徒等に、交流の側面から豊かな人間性を育む他に期待される成果を10文字以内で記入しなさい。

3 次の文章を読んで、内容が正しければ○を、誤っていれば×を記入しなさい。

- (1) 就労継続支援A型事業は、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。
- (2) 肢体不自由のある児童生徒がICT機器を活用するにあたり、スイッチ等入力装置を利用しやすいように固定する支持機器など周辺の機器も児童生徒の身体状況に合わせて適用することも重要である。
- (3) 学校における医療的ケアのうち認定特定行為業務従事者が行う特定行為とは、①口腔内の喀痰吸引、②鼻腔内の喀痰吸引、③気管カニューレ内の喀痰吸引、④胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、⑤経鼻経管栄養の5つに限られる。
- (4) 特別支援学校(知的障害)の対象者である子どもの障害の程度は、学校教育法施行令第22条の3により、知的発達の遅滞の程度が中度以上のものとされている。

令4 特別支援学校 (8枚のうち2)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

4 病気療養中の児童生徒へのICT活用に関する文章を読んで、文章中の①～⑥に当てはまる語句を、あとのア～ソからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。

病弱者である児童生徒の学習においては、入院や治療、体調不良等のため学習時間の制約や学習できない期間(学習の空白)などがあるため、学習の空白を補うための一つ的手段として、病室でも使用しやすい(①)やオンライン教材の活用などが有効である。また、限られた学習時間で効率的な指導を行うために、教育内容を適切に(②)するとともに、理科における実験の(③)や社会科における調べ学習など、多様な内容を包含した指導を行う必要がある。

また、同年代の児童生徒や親元から離れて入院生活を送る病弱者である児童生徒にとっては、家庭や前籍校などとの(④)は重要であるため、時間や空間に制限されないネットワークは、その特性から児童生徒が自らの生活を豊かにしていく上で有用な方法ということができ、病気による運動や(⑤)の規制がある児童生徒の学習環境を大きく変える可能性がある。これらは、学習上の効果を高めるだけでなく、(⑥)や心理的な安定など、心理的な面においても効果がある。

- ア デジタル黒板 イ 簡略化 ウ 予習 エ 評価 オ 意欲 カ 実習 キ 交流 ク 精選
- ケ シミュレーション コ 体験 サ 成績 シ 拡充 ス 生活 セ デジタル教科書 ソ 治療

II 特別支援学校学習指導要領に関して、次の問いに答えなさい。

1 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)「第1章 総則」「第3章 特別の教科 道徳」について、次の問いに答えなさい。

(1) 学習指導要領では、道徳に関して、次のように示されている。文中の①～⑧に当てはまる語句を、あとのア～タからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。

- ・小学部第5学年及び第6学年においては、相手の考え方や立場を理解して支え合うこと、法やまじりの意義を理解して進んで守ること、(①)の充実に努めること、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること。
- ・中学部においては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、(②)活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、生徒の日常生活に生かされるようにすること。その際、(③)の防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。
- ・学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や(④)との共通理解を深め、相互の連携を図ること。
- ・児童又は生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい(⑤)を養うとともに、健全な人生観の育成を図る必要があること。
- ・各教科等との関連を密にしながら、経験の拡充を図り、豊かな道徳的(⑥)を育て、広い視野に立って道徳的(⑦)や(⑧)ができるように指導する必要があること。

- ア 判断 イ 虐待 ウ 地域社会 エ 生活態度 オ いじめ カ 人間関係
- キ 集団生活 ク 関係機関 ケ 環境体験 コ 職場体験 サ 実践力
- シ 基本的な生活習慣 ス 行動 セ 価値 ソ 集団宿泊 タ 心情

(2) 「第8節 重複障害者等に関する教育課程の取扱い」について、次のように示されている。下線部①～④の語句が正しければ○を、誤っていれば正しい語句を答えなさい。

- ・中学部の①外国語活動については、小学部の外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることができること。
- ・重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳科、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、②生活単元学習を主として指導を行うことができるものとする。
- ・重複障害者、療養中の児童若しくは生徒又は障害のため通学して教育を受けることが困難な児童若しくは生徒に対して教員を派遣して教育を行う場合について、特に必要があるときは、実情に応じた③授業内容を適切に定めるものとする。
- ・④幼稚園教育要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができること。

令 4 特別支援学校 (8枚のうち3)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

2 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)「第2章 各教科」について、次の問いに答えなさい。

(1) 視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校ごとに必要とされる指導上の配慮事項について、次のように示されている。文中の①～⑩に当てはまる適切な語句を、それぞれ書きなさい。ただし、同じ数字には同じ語句が入る。

障害の種別	指導上の配慮事項
視覚障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の視覚障害の状態等に応じて、(①) 又は普通の文字の読み書きを系統的に指導し、習熟させること。なお、(①) を常用して学習する児童に対しても、漢字・漢語の理解を促すため、児童の発達の段階等に応じて適切な指導が行われるようにすること。 ・視覚補助具やコンピュータ等の情報機器、触覚教材、(②) 教材及び音声教材等各種教材の効果的な活用を通して、児童が容易に情報を収集・整理し、主体的な学習ができるようにするなど、児童の視覚障害の状態等を考慮した指導方法を工夫すること。 ・児童が場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮することで、(③) や時間の概念を養い、見通しをもって意欲的な学習活動を展開できるようにすること。
聴覚障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を通して、学習の基盤となる語句などについての的確な(④) 概念の形成を図り、児童の発達に応じた思考力の育成に努めること。 ・児童の聴覚障害の状態等に応じて、音声、文字、手話、(⑤) 等を適切に活用して、発表や児童同士の話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れ、的確な意思の相互伝達が行われるよう指導方法を工夫すること。 ・児童の聴覚障害の状態等に応じて、補聴器や(⑥) 等の利用により、児童の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
肢体不自由者である児童に対する教育を行う特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の(⑦) の動きの状態や認知の特性、各教科の内容の習得状況等を考慮して、指導内容を適切に設定し、重点を置く事項に時間を多く配当するなど計画的に指導すること。 ・児童の学習時の(⑧) や認知の特性等に応じて、指導方法を工夫すること。
病弱者である児童に対する教育を行う特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童の病気の状態や学習環境に応じて、間接体験や(⑨) 体験、仮想体験等を取り入れるなど、指導方法を工夫し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。 ・病気のため、(⑧) の保持や長時間の学習活動が困難な児童については、(⑧) 変換や適切な(⑩) の確保などに留意すること。

(2) 次の表は、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の内容の一部を小学部1段階から高等部2段階まで系統的に並べたものである。①～⑤に当てはまる文を、あとのア～キからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。

	小学部			中学部		高等部	
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
(例) 音楽科 A 表現	音や音楽を感じて体を動かす技能	範唱を聴いて、曲の一部分を模唱する技能	範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能	範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする技能	歌詞やリズム、音の高さ等を意識して歌う技能	範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能	創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
国語科 C 読むこと		①	②	③	④	⑤	

- ア 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。
 - イ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。
 - ウ 目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。
 - エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。
 - オ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。
 - カ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。
 - キ 中心となる語句や文を明確にしながらかくこと。

令4 特別支援学校 (8枚のうち4)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

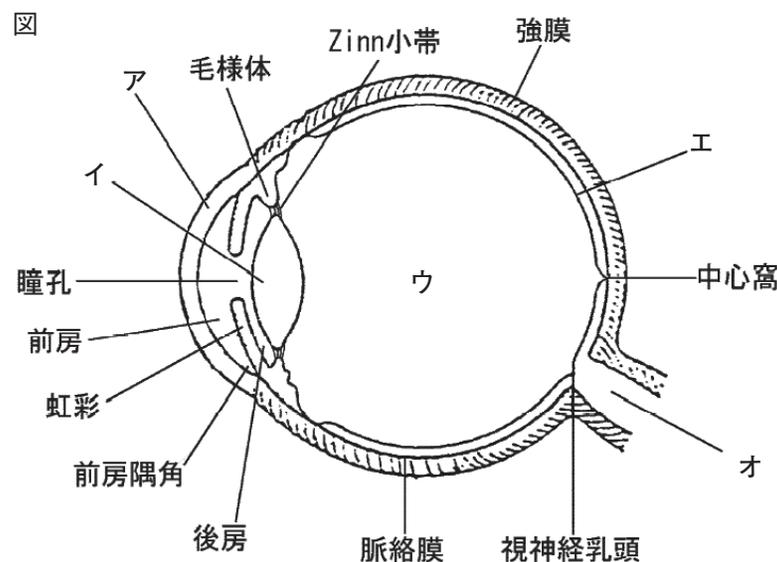
(3) 自立活動の指導における個別の指導計画の作成について、次の手順①～⑤の内、⑤の に当てはまる語句を20字以内で記入しなさい。

- ① 個々の児童生徒の実態（障害の状態、発達や経験の程度、生育歴等）を的確に把握する。
- ② 実態把握に基づいて指導すべき課題を抽出し、課題相互の関連を整理する。
- ③ 個々の実態に即した指導目標を明確に設定する。
- ④ 小学部・中学部学習指導要領第7章第2の内容の中から、個々の指導目標を達成するために必要な項目を選定する。
- ⑤ 選定した項目を する。

Ⅲ 障害種別ごとの次の問いに答えなさい。

(視覚障害)

1 次の図は右眼を水平に切って上から見た眼球の水平断面図であり、下の文章はものを見る仕組みの説明文である。あとの問いに答えなさい。



外界からの光（視覚情報）は、まず（ア）で屈折し、さらに（イ）で屈折し、（ウ）の中を進んで（エ）に伝えられます。そして、（エ）に達した光刺激は、（オ）から後頭葉の視中枢に達してはじめて視覚を生じます。視覚障害はそれらのいずれかの部位の疾病や機能低下により、見えないあるいは不十分にしか見えない状態です。

- (1) 図のア～オの部位の名称を書きなさい。
- (2) 図の虹彩と瞳孔はどのような働きをするか10文字以内で説明しなさい。
- (3) 図のエが剥がれて、視野が欠け、ものが歪んで見えるなどの病状を何というか。
- (4) 学齢児にみられる視覚障害の主要な原因疾患の1つに、先天白内障がある。それはどの部分が濁る視力障害か、その部分を図のア～オから1つ選んで、その符号を書きなさい。

2 次の(1)～(4)について、正しいものに○を、誤っているものに×を書きなさい。

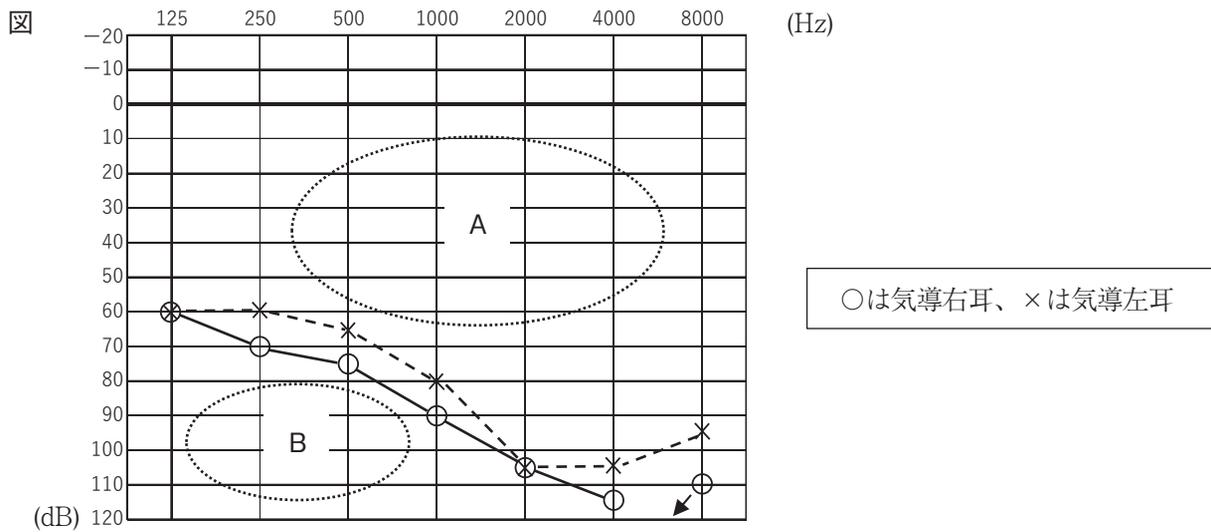
- (1) 視機能が低下していても、それが何らかの方法もしくは、短期間に回復する場合は視覚障害とはいわない。
- (2) 片眼だけに視機能の低下がある場合には、視覚障害とはいわない。
- (3) 先天白内障の場合、手術によって視力が回復する場合はない。
- (4) 視野障害には、暗順応障害と明順応障害がある。

令4 特別支援学校 (8枚のうち5)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

(聴覚障害)

3 次の図は聴力検査の結果である。あとの問いに答えなさい。



- この図を何というか、カタカナで答えなさい。
- この図の縦軸 (dB) と横軸 (Hz) はそれぞれ何を示しているか答えなさい。
- 点線で囲んだAの範囲 (上側) と、Bの範囲 (下側) では、どちらの範囲の音が聞こえているか、AまたはBの符号で答えなさい。
- 気導による聴力検査と、骨導による聴力検査を合わせて行ったところ、骨導の結果が気導の結果に比べて大きく聞こえが良かった。これはどのような難聴であると考えられるか、次のア、イから選んで、その符号を書きなさい。

ア 伝音性難聴 イ 感音性難聴

(肢体不自由)

4 肢体不自由に関する次の問いに答えなさい。

- 肢体不自由の学校に在学する子どもの起因疾患として最も多い疾患は何か、その名称を書きなさい。
- 肢体不自由の特別支援学校では、子どもたちが車いすによる移動やつえを用いた歩行ができるように、校内環境のバリアフリーに努めている。肢体不自由者に対するバリアフリーとしてどのような施設・設備があるか2つ書きなさい。
- 筋ジストロフィーについて正しく書かれているものを、次のア～エから2つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 進行性疾患で筋力が次第に低下する イ 福山型は先天性の疾患である
 ウ デュシェンヌ型は女子に発症する エ ベッカー型は筋ジストロフィーの中で最も多い

- 神経症状による各病型分類の説明文である。説明している型名を、あとのア～エからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。
 - バランスをとるための平衡機能の障害と運動の微細なコントロールのための調節機能の障害を特徴とする。
 - 手や足、特に足のふくらはぎの筋肉等にこわばりや固さが見られ、円滑な運動が妨げられている。
 - 上肢や下肢を屈伸する場合に、鉛の管を屈伸するような抵抗感があるもので、四肢まひに多い。
 - 頸部と上肢に不随意運動がよく見られ、下肢にもそれが現れる。その特徴として、運動発達では、頸の座りや座位保持の獲得の遅れが見られる。

ア アテトーゼ型 イ 痙直型 (けいちよく型) ウ 失調型 エ 固縮型

令4 特別支援学校 (8枚のうち6)

(解答はすべて、解答用紙に記入すること)

IV 次の表と WISC-IVの結果は、特別支援学校に在籍する小学部2年Aさんのプロフィールである。あとの問いに答えなさい。

表〈学校・家庭での様子・WISC-IVの検査時の様子と結果〉

学校での様子		家庭での様子		
学習面	(a)一斉指示の時に、内容が理解できずにパニックを起こして泣き出すことがある。返事や挨拶などはできるが、自分が話したいことを一方的に話すことが多く、質問に対する答えや意見の発表は難しい。平仮名と数字のなぞり書きはできる。	帰宅後、荷物の片付けができず母親に叱られる。一人で好きな動画を見たり折り紙やぬり絵をしたりして過ごすことが多いが、宿題や食事、入浴などへの場面の切り替えが悪く泣いて嫌がる。放課後等デイサービス事業所を利用しており、(c)利用している事業所でも同様に片付けができない、場面の切り替えが悪い等が見られる。		
生活面 行動面	自分の興味関心のある事をしていいるうちに集団から遅れることがある。片付けができず、机上や引き出しの中など物が散らかっている。休み時間は、一人で折り紙や本を読んでいることが多いが、体を動かすことも好き。(b)友だちと遊んでいる時に急に大声を出したり、友だちをたたいたり、突然遊ぶのをやめたりすることがある。			
〈WISC-IV 検査時の様子〉 入室し何回も着席するように声をかけられて着席した。検査中は、周りを眺めたり突然立ち上がったたりして集中できなかった。教示が理解できなかつたり、教示の途中で話したりすることがあった。会話や説明においては、言葉の用法の誤りや自分の興味のあることを話す等、話が成立しないことがあった。一方、書く作業課題は、集中して積極的に取り組んでいた。				
WISC-IV 合成得点プロフィール				
全検査 IQ (FSIQ)	言語理解指標 (VCI)	知覚推理指標 (PRI)	ワーキングメモリー指標 (WMI)	処理速度指標 (PSI)
69	68	63	60	93

1 次の問いに答えなさい。

- (1) Aさんの WISC-IVの結果や検査の様子から、Aさんの認知特性やAさんの強みや弱みについて、正しいものに○、誤っているものに×を書きなさい。
 - Aさんは、知的障害が疑われる。
 - 全体に着目することや複数の事柄を統合して推理する能力は強い。
 - 注意・集中、実行機能（遂行機能）などの能力は強い。
 - 単純な視覚情報を素早く正確に読み込む、順に処理する、識別する能力は弱い。
- (2) 下線部(a)について、パニックを起こさずに適切に行動できるためのAさんへの支援方法を、Aさんのプロフィールを踏まえて3つ簡潔に書きなさい。

2 下線部(b)について次の問いに答えなさい。

- (1) 下線部(b)の行動問題の要因の1つとして、「集中が持続しない」ということが考えられた。これ以外で考えられる行動問題の背景について、Aさんのプロフィールを踏まえて書きなさい。
- (2) 下線部(b)の行動改善に向けて、まずは実態把握として行動観察をすることになった。あなたは担任として①どのような方法で、②どの様な点に注目して行動観察するか、書きなさい。

3 下線部(c)について次の問いに答えなさい。

保護者より、「家でも放課後等デイサービス事業所でも片付けができず困っている」との相談があり、保護者・学校・放課後等デイサービス事業所の三者で行動問題の改善に取り組むことになった。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

担任は、保護者からの相談を受けて家庭での様子を聞き取り、学部・学年の教員や（ X ）と相談内容を共有した。管理職や（ X ）に関係機関との（ ① ）を依頼し、保護者・学校・放課後等デイサービス事業者の三者での支援会議を開催することになった。支援会議では、保護者の（ ② ）のもと（ Y ）の内容や学校の様子、保護者の（ ③ ）、放課後等デイサービス事業所の情報等を共有した。共有した情報をもとに三者で（ ④ ）を行い、行動問題に対する支援案を立案し、（ ⑤ ）を図った。家庭、学校、放課後等デイサービス事業所における支援の（ Z ）性の確保により、相乗的な（ ⑥ ）を得ることを目標に取り組むことを確認した。

- (1) 文中のX、Y、Zに当てはまる適切な語句を書きなさい。ただし、同じ英字には同じ語句が入る。
- (2) 文中の①～⑥に当てはまる適切な語句を、次のア～スからそれぞれ1つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 共通理解	イ 予定	ウ 協力	エ 要望	オ 指示	カ 企画運営	キ 同意
ク 環境設定	ケ 連絡調整	コ 実態把握	サ 連携	シ 協議	ス 効果	

令4 特別支援学校解答用紙 (8枚のうち7)

総計		

特別支援

I	1	(1)	①		②		③						
			④		(2)								
		(3)	→ → →										
	2	(1)	①		②		③		④				
			⑤		⑥		⑦		⑧				
		(2)											
	3	(1)		(2)		(3)		(4)					
		4	①		②		③		④		⑤		⑥

I

II	1	(1)	①		②		③		④		
			⑤		⑥		⑦		⑧		
		(2)	①			②					
			③			④					
	2	(1)	①			②			③		
			④			⑤			⑥		
			⑦			⑧			⑨		
		2	⑩								
		(2)	①		②		③		④		⑤
		(3)									

II

20文字

令4 特別支援学校解答用紙 (8枚のうち8)

特別支援

Ⅲ	1	(1)	ア			イ			ウ				
			エ			オ							
		(2)											
		(3)						(4)					
	2	(1)		(2)		(3)		(4)					
		(3)						(2)	縦		横		
	3	(1)						(2)	縦		横		
		(3)		(4)									
	4	(1)						(2)					
		(3)			(4)	①		②		③		④	

Ⅲ

Ⅳ	1	(1)	①		②		③		④				
		(2)											
	2	(1)											
		(2)	①										
	3	(1)	X						Y				
		(2)	Z										
		(2)	①		②		③		④		⑤		⑥

Ⅳ

令 4 特別支援学校 模範解答

総計		
200点		

I	1	①	多様性	②	最大	③	参加						
		(1)	④	合理的配慮	(2)	インクルーシブ教育システム							
		(3)	エ → イ → ア → ウ										
	2	(1)	①	コ	②	ソ	③	ア	④	カ			
		(2)	⑤	ツ	⑥	セ	⑦	ク	⑧	イ			
(2)	障 害 者 理 解 が 深 ま る												
3	(1)	×	(2)	○	(3)	○	(4)	×					
4	①	セ	②	ク	③	ケ	④	キ	⑤	ス	⑥	オ	

I		
39点		

II	1	(1)	①	キ	②	コ	③	オ	④	ウ		
		(1)	⑤	エ	⑥	タ	⑦	ア (ス)	⑧	ス (ア)		
	(2)	①	外国語科				②	自立活動				
	(2)	③	授業時数				④	○				
	2	(1)	①	点字				②	拡大		③	空間
④			言語				⑤	指文字		⑥	人工内耳	
⑦			身体				⑧	姿勢		⑨	疑似	
(2)		⑩	休養									
(2)	(1)	①	イ	②	エ	③	ア	④	キ	⑤	オ	
(3)	相 互 に 関 連 付 け て 具 体											
(3)	的 な 指 導 内 容 を 設 定											

II		
54点		

20文字

令 4 特別支援学校 模範解答

Ⅲ	1	(1)	ア	角膜			イ	水晶体			ウ	硝子体			
			エ	網膜			オ	視神経							
		(2)	光	の	量	を	調	節	す	る					
		(3)	網膜剥離						(4)	イ					
	2	(1)	○	(2)	○	(3)	×	(4)	×						
	3	(1)	オージオグラム					(2)	縦	聴カレベル (音の強さ・大きさ)			横	周波数 (音の高さ)	
	(3)	B	(4)	ア											
	4	(1)	脳性疾患 (脳性麻痺)					(2)	スロープ				自動ドア (他に、手すり、エレベーターなど)		
	(3)	ア	イ	(4)	①	ウ	②	イ	③	エ	④	ア			

Ⅲ		
65点		

Ⅳ	1	(1)	①	○	②	×	③	×	④	×					
		(2)	座席を前にする スケジュールや指示を視覚的に提示する 指示する前に名前を呼んで注目を促す 等												
	2	(1)	ルールがわからない、気持ちのコントロールが難しい、言葉によるコミュニケーションに困難さがある 等												
	(2)	①	行動を記録する												
	②	いつ(時間)・どこで(場所)・誰と(周囲の環境)・何をしていて(遊びの内容)、どんなことをしたとき、どうなったか(回数・強度・行動の結果)													
	3	(1)	X	特別支援教育コーディネーター						Y	個別の教育支援計画				
	Z	一貫													
	(2)	①	ケ	②	キ	③	エ	④	シ	⑤	ア	⑥	ス		

Ⅳ		
42点		